



市民大茶会でお茶を味わう来場者 (10月29日)



文化センター前広場で「八幡音頭」を披露する踊り手 (10月29日)

市民文化祭 4年ぶり通常開催

舞台発表や大茶会にぎわう

茶室をイメージした「市民大茶会」を開催。来場者は、花が生けられた竹のオブジェや景色を眺めながら、優雅な雰囲気を楽しみつつ、文化協会茶道部員が八幡市産の抹茶で点てたお茶を味わっていました。



29日には、文化センター前広場で、新調された浴衣をまとった舞踊部員らが「八幡音頭」などを披露。踊り手の息の合った振り付けに、会場からは自然と手拍子が起こっていました。また、新庁舎4階の市民プラザでは、特別にテラスも開放され、写真、空中

第51回八幡市民文化祭が10月28日・29日、文化センターとその周辺で行われ、4年ぶりにコロナ禍前と同規模で開催されました。市、市教育委員会、市民文化協会が主催。市民の文化芸術活動の成果を発表する場として行われています。文化センターでは、ダンスや楽器演奏などの舞台発表があり、絵画や書などの力作がずらりと並びました。木工教室などの体験教室や模擬店にもぎわっていました。

防犯意識向上 呼びかけ

「安全・安心のまちづくりパレード」が11月23日、橋本小学校を拠点に開催され、市内各地域から約700人が参加しました。同パレードは、地域の防犯意識の向上を図り、防犯対策と犯罪への抑止力にしようとして、八幡市自治連合会が平成16年から主催。市内を6地域に分けて、年ごとに地域をかえて開催しており、今年もコロナ禍を経て4年ぶりに開催されました。パレード前には記念式典が行われ、同連合会の上原嘉昭会長は「自助・



共助・公助」の精神のもとに、皆が住んでよかったと言える安全・安心のまちを目指し、これから頑張っていきたい」とあいさつ。また、「安全・安心のまちづくり」に貢献された8人へ感謝状が贈呈されました。その後、参加者たちはパトカーや京都府警察平安騎馬隊の先導で地域を行進。「犯罪のないまち」や「振り込めサギに注意」などのプラカードを掲げ、「安全・安心のまちづくり」を呼びかけていました。

横断幕を掲げて行進する参加者たち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

迷路で防災クイズ

「こども防災デイキャンプ」を11月11日、八幡小学校で開催。市内小学生33人が参加し、レクリエーションを通して、防災の知識を学びました。体験型防災訓練を通じて防災力を高めてもらおうと市が主催。今回は男山地域再生に取り組み「男山やつてみよう会議」の防災チームと連携し、実施しました。

こども防災デイキャンプ

参加者は4つの隊に分かれ、体育館内に設けられた迷路の中を歩きながら、6問の防災クイズに挑戦。出口付近では、毛布を担架として使用し、ケガ人に見立てたクマの人形を運ぶ方法も学びました。この他、食材を耐熱性ポリ袋に入れて湯煎する「パッパクッキング」や、新聞紙を使ったスリッパの作成や器づくり、避難所資機材やマンホールトイレの設営など、各コーナーを巡りながら、防災の知識を深めていきました。



避難所用段ボール間仕切りで作られた迷路

今月のこの人

市スポーツ賞功労賞を受賞



「自身が運営する大会で、昔の教え子が出場してくれたときや、参加者同士が楽しそうに交流する様子を見るのがうれしい」と思い出を振り返るのは、「八幡市バスケットボール協会」顧問の阪下泰男さん。阪下さんは、同協会設立時より自ら先頭に立ち、市長杯、市民総体、協会長杯

の立ち上げに尽力。また子ども向けバスケットボール教室での指導や中学生交流大会の企画運営など、市民へのスポーツ普及のため日々活動を続けてきました。アイコンタクトでプレーが繋がりに、仲間と成功体験を共有できるのがバスケットボールの醍醐味という阪下さん。「選手やボールの動きの予測と判断を繰り返すことで視野が広がる。その経験は社会生活でも役立つもの」と力説します。子どもたちには「スポーツを通して体を動かす楽しさを知り、そこで出会った人との関係を将来も大切にしたい」と話しました。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。